

信州カラマツの魅力

地域の木材を使う

上小木材協同組合

◇ 「信州カラマツ」って知ってますか。

カラマツ

カラマツ(唐松)は「落葉松」と書くこともあり、日本の樹木のなかで、冬に葉を落とす唯一の落葉針葉樹です。北海道、東北地方、本州中部地方の寒冷地に生育しており、春の芽吹き、夏の緑、秋は葉を黄金色に染め、四季を通して地域の景色を彩ってくれます。

長野県(信州)のカラマツ林

長野県は、県土の78%(約106万ha)を森林が占め、その内、先人達により育まれてきた人工林が44万haを占めています。

人工林のうち実に半分以上(55%)の24万haがカラマツで占め、スギ(14%)やヒノキ(18%)と比較し、飛び抜けており、信州を代表する樹種と言えます。

また、上高地、軽井沢、ハケ岳高原や美ヶ原高原など、信州を代表する観光地でも四季折々、美しい姿を見せてくれています。

(長野県林務部 民有林の現況より)

カラマツ造林の歴史

カラマツ造林の最も古い事例は、寛永年間(1624～1645年)に川上村で幕府の天領として数百町歩にわたり造林されたといえます。現存する最古のカラマツ人工林としては御代田町の国有林に嘉永5年(1852年)に植林されたカラマツ林が現存しています。

最初の造林は、山引き苗での植林であったが、成長が悪かったため、明治10年頃、協和村(佐久市望月)、今井村(松本市)等で種子を用いた養苗技術が開発され、その後県内各地に苗木生産が広がり、大規模造林が始まって行きました。

カラマツは寒さが厳しい環境で生育し、成長が早く、木材強度も優れているため、スギ、ヒノキが育たない土地でも積極的に植林されました。同様に、北海道や岩手県、山梨県でも、長野県からカラマツ苗が供給され、盛んにカラマツが植林されました。明治後期にはヨーロッパ、中国、朝鮮半島にも輸出され造林されました。

第二次世界大戦後の荒廃した森林を、緑豊かな森林に復興させるため、昭和30年代からは拡大造林が進められ、成長が早く、強度も優れているカラマツは、港湾等の杭丸太や電信柱等として使用する予定で積極的に植林され、現在では長野県の造林面積の半分以上をカラマツが占めるようになりました。



地上に芽を出したカラマツ



水滴をまとうカラマツの葉



黄金色に輝くカラマツ林

◇ 「信州カラマツ」を オススメ する理由

カラマツ材の利用

カラマツ材は繊維が螺旋状に育つ(旋回木理)ため、割れや狂いが出やすく、住宅用材としては以前は敬遠されていましたが、昭和40年代からのカラマツ材の利用技術開発の進歩と加工技術の向上に伴い、現在では住宅用の構造材、造作材、集成材、床材及び、構造用合板、家具、建具など様々に利用されています。

「信州カラマツ」を オススメ します

- ・カラマツは、寒冷で降雪も多く、スギやヒノキの生育に適さない地域でも力強く育つのが特徴で、他の樹種より強度があり粘り強い材質です。

- ・カラマツは樹脂分が多いことから、耐水性、耐久性が高く土木材、杭木としても重宝されてきました。

- ・心材部は赤みを帯び、きれいな木目になり、無垢材としても利用できます。

木目は春材と夏材の区分がはっきりしていることから、メリハリの効いた独特の風合いを出しています。

- ・カラマツは年を重ねると、木材の性質が安定してきて「ねじれ」が生じにくい成熟材が多くなり、スギ・ヒノキに比べても強度が優れています。



手入れされたカラマツ林



カラマツの丸太

環境保全や地域貢献に繋がります。

森林は二酸化炭素固定による地球温暖化防止、土砂災害の防止、水源のかん養、生物多様性の保全など様々な働きがあり、木材は何度でも再生産可能な資源であり、地球環境や私たちの暮らしにとって優しい自然素材です。

再生産可能な木材を使い、緑豊かな森林を次世代へ繋いでいくための循環利用は「SDGs」にも貢献しています。



まっすぐと育つカラマツ

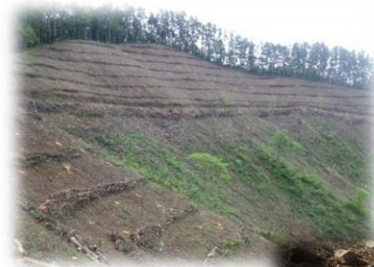


森ができるまで

木材を伐って利用し、再び植えて育てる、といった森林の循環は森林経営の基本です。地ごしらえ、植栽、下刈り、除伐、間伐などの手入れを着実にを行い、経済的にも有利な質の良い木材を生産するだけでなく、生物多様性や水源かん養さらには二酸化炭素の吸収・固定による温暖化対策など多様な機能が持続的に発揮できる森林を育てます。

地拵え

木材を伐採した後に、次代の苗木を植えるため、山に残された枝や雑木を集積して柵をつくる



植 林

将来の豊かな森を想像しながら、しっかりと丁寧に苗木を植える



下草刈り

苗木は植えてから数年間は、勢いの良い雑草木などによって成長が阻害されたり枯損するのを防ぐため、



除伐・ツル切り・獣害対策

木が成長してくると、成長の悪い不良木や勢いの良い灌木、幹に巻き付いたツル類を取り除く除伐を行う
また、シカやクマなどによる食害や皮むき被害を防ぐための獣害対策も大事な作業である



間 伐

木が成長すると林は混み合い、林内に光が入らなくなり、病虫害や災害が発生しやすくなるため、成長に合わせて3回から5回の間伐を行う。
保育のための切り捨て間伐と、木材を利用する利用間伐がある



作業道の開設

森林を、日々管理していくためには作業道等の新たな開設やそれら施設の維持管理も必要



長い間、適正に管理され、木材として利用される日を待つカラマツ林

